

財 団 報

Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders

2013.9 No. 6

目 次

ご挨拶 理事長 児玉 龍彦	1
I 平成 24 年度事業報告	
1. 年間の経緯	2
2. 事業について	
1) 助成事業 i) 研究助成金、ii) 海外留学補助金	4
2) 研究報告会	9
3) 特別講演、表彰	10
4) 第 42 回助成研究報告集	11
3. 会計報告	12
II 平成 24 年度最優秀理事長賞・竹中奨励賞受賞者、研究助成金・海外留学補助金交付者 からののお便り...	13
最優秀理事長賞 国嶋 崇隆、華山 力成	15
竹中奨励賞 伊原 伸治	17
研究助成金 伊東 史子、今城 健人、海川 正人、岡野 純子、堅田 明子、 鹿野 理子、河村 和弘、久原 篤、杉浦 至郎、滝田 良、 田口 久美子、田中 敬、富川 純子、羽田 沙緒里、濱崎 万穂、 林 久允、三室 仁美、向 高弘、村上 英樹、吉田 清嗣、脇本 敏幸 海外留学補助金 大平 洋、鬼塚 岳志、小玉 尚宏、櫻井 俊宏、白石 裕士、 新藤 悠子、高橋 悠太、根本 泰宏、藤村 篤史、山橋 幸恵	18 39
III 財団概要	49
1. 沿革	49
2. 目的	49
3. 事業	49
4. 事業内容	49
5. 組織と人員	50
6. 評議員・役員	51
設立趣意書	52
IV ご寄付の報告とお願い	53
編集後記	54

公益財団法人アステラス病態代謝研究会

注記

- ◆ この財団報は、平成25年（2013年）6月8日開催の平成25年度第1回定例理事会を経て、6月24日開催の平成25年度定時評議員会で承認された「平成24年度事業報告および収支報告」に基づいて、当財団の平成24年度（2012年4月1日～2013年3月31日）の事業内容を取りまとめ、発行するものです。
- ◆ 本報告書・助成対象一覧の所属機関は、研究助成金は交付時、海外留学補助金については申請時のものであり、それ以降の変更は一部を除き原則として反映させていません。

「経験」から「予測」への変貌： エピゲノムデータの読み方

児玉 龍彦

公益財団法人アステラス病態代謝研究会 理事長
東京大学 先端科学技術研究センター 教授



生命科学の実験結果の表示に大きな変化が現れて、とまどっている人も多いだろう。特に、ゲノム解読からデータの扱いが大きく変わりだしていたのだが、エピゲノムの研究になって質的に変わっている。

初期のゲノム解読データは、例えば、個人別の配列変異と、病気の出現頻度の相関を、統計処理で示すようなものである。まだ以前からの、いわゆるフィッシャー統計学のような統計処理が可能に思えた。

ところがエピゲノム研究になって、実験結果の表示方法が大きく変わってきた。今、先端研で我々がやっているのは、血管なら転写因子のGATA2やNFATc、iPS細胞ならOct3やSox2の染色体の上での結合場所を決めるクロマチン免疫沈降法(ChIP-seqと略される)で、ゲノムマップの上に表示されるリード数の解析である。

専門でない方のために、ChIP-seqの具体的な実験手法を説明すると、まず生きた細胞のまま、DNAと転写因子をホルマリン固定で弱くクロスリンクしてくっつけてしまう。その後、DNAをばらばらに切断して、抗体を用いた免疫沈降で、転写因子と結合しているDNAを分離する。そして転写因子と結合していた配列を全部、次世代シーケンサーで決める。その数千から数万のリードをすべてゲノム配列上に貼り付けて表示する。そこから、さらに、転写因子などの結合している可能性の高い配列が順位づけされて表示される。

こうした図版からデータの意味を読み取ることに困難を覚える研究者も多いだろう。自分が論文を書こうとすると、さらに深刻な問題が待っている。理論的な理解は難しいので、例えばマイクロアレーならGeneSpring、次世代シーケンサーならBase Spaceなどの利用可能なソフトに放り込んで、結果を表示するだけである。

しかし、実は、こうしたことの背景に、生命科学の手法の変貌がある。今までは、生命科学の研

究では、「強い」相互作用を実証してきた。しっかりと結合した「強い」相互作用は、解析しやすい。しかし、実際には、DNAの配列の生み出す構造を認識するたくさんの「弱い」結合が、多数の相互関係の集合として、機能を決めていることがわかってきた。

「強い」相互作用はハウスキーピング遺伝子の発現などに恒常的にみられ、多くの関係の中心のノードを作るので検出しやすい。

これまでの、決定論的な「強い」相互作用は、ハウスキーピング遺伝子のような恒常的なメカニズムの理解には有効な手法であった。しかし、ネットワーク理論の研究者であるバラバシは、2011年のNature論文で、制御にかかわるのは、高い集積を示すノードではなく、その周辺である事を示している。

多細胞生物の分化や環境への適応で現れる相互作用は、一過性の「弱い」、複数の相互作用で形成される。転写因子の修飾による一過性の制御のように、「弱い」相互作用は、おもしろそうだが、沢山ありすぎて、シグナルとノイズの区別もつかず、それを証明するのは理論的には可能であっても現実的には不可能と考えられてきた。

ゲノム解読以降の技術開発とともに、そういうデータも膨大ではあるが有限となってきた。次世代シーケンサーや質量分析で、データを集め、コンピューターでの計算で、考えられているメカニズムが実際の事象の予測に有効かが問われるような生命科学の方法が求められるようになってきた。多様性という言葉で済まらず、理論による予測の、実測による検証が求められるのだ。

「経験」から理論による「予測」へ、それを支える膨大なデータと演算能力と、研究者のネットワークが求められる。アステラス病態代謝研究会は、こうした変貌の意味を理解し、研究者コミュニティの飛躍をお手伝いしたいと思っている。

(2013年9月 記)



平成24年度事業報告

1 年間の経緯

平成24年（2012年）

4月 1日 平成24年度研究助成金・海外留学補助金の応募要領公開（財団ホームページ）
（募集期間：平成24年4月1日～6月15日）

6月 9日 第1回定例理事会

- 任期満了に伴う理事、監事推薦の件

6月の定時評議員会の終結の時をもって理事15名、監事2名全員が任期満了となることに伴い、新しい理事・監事候補者（下記の6月26日定時評議員会の項参照）を評議員会に推薦するための信任投票を行ったところ出席理事全員の賛成を得て推薦された。

- 任期満了に伴う学術委員選出の件

6月の定時評議員会の終結の時をもって26名全員が任期満了となることに伴い、理事会として新しい学術委員を選出した。退任する2名を除く24名に、新たに就任する5名を加えた29名は以下の通りである。

退任：長澤寛道（理事に就任）、中村栄一（辞任）の各氏

重任：一條秀憲、稲葉俊哉、井上将行、上田啓次、大隅典子、大谷直子、小川佳宏、尾崎紀夫、笠井清登、熊ノ郷淳、後藤由季子、塩見美喜子、袖岡幹子、高柳広、竹居孝二、徳山英利、中山俊憲、根岸学、南雅文、三輪聡一、柳田素子、山下敦子、山本一夫、若槻壮市の各氏

新任：今井由美子、上杉志成、大嶋孝志、佐々木雄彦、舩森直哉の各氏

- 平成23年度事業報告、収支報告の件

- 平成24年度選考委員選任の件

- 公益目的事業資金規程、法人会計資金規程の件

- 理事長および専務理事業務執行報告

6月26日 定時評議員会

- 定款変更の件

- 評議員辞任に伴う後任者選出の件

出席評議員全員の信任により相川氏、大石氏が選出された。

退任：江端貴子氏（アステラス製薬社外取締役退任に伴い辞任）

退任：猿田享男氏（アステラス製薬社外取締役退任に伴い辞任）

後任：相川直樹氏（アステラス製薬社外取締役就任、理事会より推薦）

後任：大石佳能子氏（アステラス製薬社外取締役就任、理事会より推薦）

- 任期満了に伴う理事、監事選出の件

出席評議員全員の信任により以下の15名が理事に、2名が監事に選出された。

理事：

退任：杉浦幸雄氏（定年）

重任：内田渡、小川久雄、堅田利明、門脇孝、倉智嘉久、
児玉龍彦、後藤由季子、須田年生、塚本紳一、中里雅光、
長野哲雄、廣崎晴久、藤井信孝、泉二登志子の各氏

新任：長澤寛道氏

監事：

重任：大山悦夫氏、樫井正剛氏

- 平成23年度事業報告、収支報告の件
- 竹中奨励賞資金規程の件
- 公益目的事業資金規程、法人会計資金規程の件
- 定款変更の件
- 平成23年度第3回および平成24年度第1回定例理事会報告の件
(含理事長および専務理事業務執行報告)

7月 9日 臨時理事会

- 代表理事（理事長）、業務執行理事（専務理事）選定の件
全員の信任を得て児玉龍彦氏が代表理事（理事長）に、塚本紳一氏が業務執行理事（専務理事）に選出された。

8月 1日～31日

選考委員による研究助成金・海外留学補助金申請書個別評価

8月20日 臨時学術委員会

- 学術委員長選定の件
全員の信任を得て後藤由季子氏が学術委員長に選出された。

9月15日 財団報（No.5）発行

9月26日 臨時選考委員会

- 選考委員長選定の件
全員の信任を得て門脇孝氏が選考委員長に選出された。

10月20日 選考委員会

- 平成24年度研究助成金および海外留学補助金交付者選出・交付総額の件
第2回定例理事会
- 平成24年度研究助成金交付者数の件
- 竹中奨励賞に関する規程の一部変更の件
- 平成24年度研究助成金および海外留学補助金交付者・交付総額の件

平成25年（2013年）

2月 2日 定例学術委員会

- 平成25年度応募要領、申請書および評価方法ガイドラインの件
第3回定例理事会
- 平成25年度応募要領、申請書および評価方法ガイドラインの件
- 平成25年度選考委員の件
- 平成24年度事業報告・仮収支報告（平成24年4月1日～12月31日）の件
- 平成25年度事業計画・収支予算書（案）の件
- 第44回研究報告会開催の件
- 平成25年度定時評議員会招集の件
- 理事長および専務理事業務執行報告

3月 1日 平成24年度海外留学補助金交付者発表

3月31日 第42回助成研究報告集発行

2 事業について

1) 助成事業

i) 研究助成金

公募テーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究」と定め、平成24年4月1日～6月15日の期間に公募を実施しました。

531名（女性97名）の応募があり、平成24年10月20日開催の選考委員会にて交付者候補が選出され、同日開催された理事会で対象者84名（女性17名）が決定されました。本決定に基づき、総額8,400万円を11月に交付しました。

ii) 海外留学補助金

平成24年5月から平成25年4月の期間に留学を開始する研究者を対象として平成24年4月1日～6月15日の期間に公募を実施しました。140名（女性10名）の応募があり、平成24年10月20日の選考委員会で交付候補者10名が選出され、同日開催された理事会で内定者10名が決定されました。

なお、その後、内定者の中に日本学術振興会からの助成金交付が決定したり、他の民間財団から合わせて200万円を超える助成金交付が決定したことにより当財団からの交付を辞退される方が複数名出ました。その都度、次点者を順次繰り上げ、平成25年2月末に10名（女性2名）の交付者を最終的に確定することができました。その後3月末にさらに1名の辞退者が出たため急きょ1名を繰り上げて年度末ぎりぎりに最終交付者を確定、総額2,000万円を交付しました。

平成24年度研究助成金・海外留学補助金公募および交付実績

研究助成金・海外留学補助金申請者数・交付者数・交付金額

項 目	申請者数 (女性数)	交付者数 (女性数)	交付金額 研究助成金1件：100万円 海外留学補助金1件：200万円
研究助成金	531名 (97名)	84名 (17名)	8,400 万円
海外留学補助金	140名 (20名)	10名 (2名)	2,000 万円
総 計	671名 (117名)	94名 (19名)	10,400 万円

平成24年度（第44回）研究助成金交付者一覧

テーマ：疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究（84名）（五十音順・敬称略）

No.	氏 名	所属機関（交付時）	研究テーマ
1	淡川 孝義	東京大学大学院 薬学系研究科 天然物化学教室	糸状菌二次代謝物合成酵素遺伝子による物質生産系構築
2	池田 和隆	東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野 依存性薬物プロジェクト	ドーパミン非依存性行動制御メカニズムの解明
3	石坂 彩	微生物化学研究所 基盤生物研究部	早老症原因遺伝子WRNによる新規転写調節機構の解明
4	一戸 猛志	東京大学 医科学研究所 感染症国際研究センター 感染制御系 ウイルス学分野	ミトコンドリアを介した新しいウイルス認識機構の解析
5	井手上 賢	熊本大学大学院 自然科学研究科 生命科学講座	セントロメア由来RNAによる染色体分離制御の解析
6	伊藤 利洋	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 免疫病理学	インフルエンザウイルス感染症に対する新たな治療戦略
7	伊東 史子	東京薬科大学 生命科学部 心血管医科学研究室	がん脈管新生におけるTGF- β シグナルの生体解析
8	稲田 明理	九州大学大学院 医学研究科 先端医療医学部門 糖尿病遺伝子分野	膵管上皮細胞から β 細胞への分化に関わる転写因子
9	伊野部 智由	富山大学 先端ライフサイエンス拠点 伊野部研究室	プロテアソームによる蛋白質分解の分子機構
10	今城 健人	横浜市立大学大学院 医学研究科 分子消化管内科学	NASH病態進展におけるエンドトキシンの役割の解明
11	植村 明嘉	神戸大学大学院 医学研究科 血管生物学分野	内皮細胞特異的GAPによる血管新生制御機構の解明
12	海川 正人	琉球大学大学院 医学研究科 医化学講座	アンギオポエチン様蛋白質による免疫細胞活性制御
13	大内 淑代	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 細胞組織学分野	紫外線感受新規光受容細胞の細胞分化機構と機能の解明
14	大熊 芳明	富山大学大学院 医学薬学研究部 遺伝情報制御学研究室	メディエーターによる発癌プロモーター刺激の機構解明
15	太田 嗣人	金沢大学 医薬保健研究域 脳・肝インターフェースメディシン研究センター	新規ケモカインによる代謝疾患の病態分子機構解明
16	小笠原 正道	北海道大学 触媒化学研究センター（大学院生命科学院兼任） 分子触媒化学研究部門	生理活性を有する天然物アレン化合物の触媒的不斉合成
17	岡野 健太郎	東北大学大学院 薬学研究科 医薬製造化学分野	動的速度論的分割を鍵とするアザスピロ環の不斉構築
18	岡野 純子	滋賀医科大学 解剖学講座 生体機能形態学部門	レチノイン酸とアラキドン酸経路を用いた育毛剤の開発
19	小澤 岳昌	東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻分析化学研究室	光応答キナーゼを用いた細胞内シグナル分別機構の解明
20	堅田 明子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 分子神経分化制御研究室	酸素濃度が神経分化に及ぼす影響とその分子機構解明
21	香月 博志	熊本大学大学院 生命科学部 薬物活性学分野	オレキシンニューロンの小胞体ストレスと生活習慣病
22	鹿野 理子	東北大学大学院 医学系研究科 行動医学分野	機能的疼痛障害に共通する中枢性バイオマーカーの探索
23	河合 佳子	信州大学 医学部医学科 器官制御生理学	流れ刺激による脈管内皮細胞の生物学的特性の変化
24	川尻 剛照	金沢大学大学院 医薬保健研究域医学系 臓器機能制御学・循環器内科	PCSK9遺伝子異常症の脂質代謝異常と動脈硬化症
25	河原 康一	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 分子腫瘍学分野	核小体ストレスの生体イメージング技術とその治療応用
26	河村 和弘	聖マリアンナ医科大学 産婦人科	早発閉経の卵胞活性化に着目した新規不妊治療法の開発
27	絹川 真太郎	北海道大学大学院 医学研究科 循環病態内科学	ナチュラルキラーT細胞活性化による心不全治療法開発
28	金 倫基	筑波大学 医学医療系生命医科学域 免疫学教室	腸内微生物による腸管外免疫の制御機構
29	久原 篤	甲南大学 理工学部 生物学科 生体調節学 久原研究室	動物の低温耐性の分子生理メカニズム
30	黒田 貴雄	同志社大学 高等研究教育機構	幹細胞のストレス応答機構が神経分化制御に果たす役割
31	幸谷 愛	東海大学 創造科学技術研究機構 医学部門 造血腫瘍分野	炎症性ニッチにおける腫瘍由来分泌性小分子RNA
32	後藤 英仁	愛知県がんセンター研究所 発がん制御研究部	Aurora A阻害性ペプチドの開発

33	小林 和人	福島県立医科大学 医学部 生体機能研究部門	高頻度逆行性遺伝子導入による神経疾患治療技術の開発
34	斉藤 寿仁	熊本大学大学院 自然科学研究科 複合新領域	ヒト好中球の細胞外クロマチン形成による感染防御
35	齋藤 正夫	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 生化学第2教室	がん-上皮細胞間相互作用によるがん悪化機構の解明
36	阪口 政清	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 細胞生物学教室	CD133のリガンド同定によるがん幹細胞特性の解析
37	佐々木 茂貴	九州大学大学院 薬学研究院 創薬科学専攻 生物有機合成化学分野	8位酸化グアニシンの特異的捕捉分子の開発
38	佐藤 明子	広島大学大学院 総合科学研究科 行動科学講座	明暗順応をつかさどる色素顆粒運動の分子機構の解明
39	佐藤 薫	慶應義塾大学 医学部 分子生物学教室	生殖細胞特異的RNAサイレンシング機構に関する研究
40	真田 昌爾	大阪大学大学院 医学系研究科 循環器内科学	心不全を重症化する新しい内因性免疫共役機序の解明
41	塩崎 一裕	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞シグナル研究室	ストレス応答を制御するMAPK-TORクロストーク
42	七田 崇	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室	炎症性疾患における炎症惹起と組織修復のメカニズム
43	地主 将久	北海道大学 遺伝子制御研究所 感染癌研究センター	自然免疫制御機構に着目した生活習慣病発症因子の同定
44	白石 充典	九州大学大学院 薬学研究院 蛋白質創薬学分野	高親和性型ヒスタミン受容体の安定化と構造解析
45	菅波 孝祥	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子代謝医学研究室	代謝シグナルによる炎症の慢性化機構の解明と医学応用
46	杉 拓磨	京都大学大 物質・細胞統合システム拠点	記憶をコードするエピジェネティック因子の同定
47	杉浦 至郎	京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学分野	乳児健診で情報提供を行い時間外受診者を減少させる。
48	杉山 成	大阪大学大学院 理学研究科 化学専攻	創薬スクリーニングを目指した新規蛋白質結晶強化技術
49	鈴木 元治郎	理化学研究所 脳科学総合研究センター タンパク質構造疾患研究グループ	プリオン化による抗真菌剤耐性獲得機構の研究
50	鈴木 孝禎	京都府立医科大学大学院 医学研究科 医薬品化学	チューブリンアセチル化剤の創製と医薬品への応用
51	高野 博之	千葉大学大学院 薬学研究院 分子心血管薬理学	DPP-4による心不全制御機構の解明
52	高山 優子	帝京大学 理工学部 バイオサイエンス学科	CENP-A転写変動がセントロメア形成に与える影響
53	滝田 良	東京大学大学院 薬学系研究科 基礎有機化学教室	カルボランアニオンを基盤とする機能性分子群創製
54	田口 久美子	富山大学大学院 医学薬学研究部 分子医科薬理学講座	糖尿病性血管障害時におけるGRK2関与のメカニズム
55	田久保 圭誉	慶應義塾大学 医学部 坂口光洋記念講座（発生・分化生物学）	代謝プログラムの理解に基づいた幹細胞操作技術の開発
56	竹内 理	京都大学 ウイルス研究所 感染防御研究分野	RNA分解による自然免疫調節メカニズムの解析
57	田中 敬	京都大学大学院 医学研究科 遺伝医学講座 分子遺伝学研究分野	精子幹細胞の自己複製分裂における活性酸素の役割
58	田邊 賢司	東京女子医科大学 総合研究所	EGF受容体によるエンドソームダイナミクスの制御
59	谷口 浩章	同志社大学 生命医科学部 医生命システム学科 遺伝情報学	エピジェネティクスによる胃がん転移阻害法の開発
60	寺井 琢也	東京大学大学院 薬学系研究科 薬品代謝化学教室	長寿命発光プローブを活用した酵素阻害剤の探索
61	東田 千尋	富山大学 和漢医薬学総合研究所 神経機能学分野	アルツハイマー病を改善する新しい薬物とその分子機序
62	徳永 文稔	群馬大学 生体調節研究所 分子細胞制御分野	炎症制御に関与する直鎖状ユビキチン結合因子の探索
63	富川 順子	国立成育医療研究センター研究所 周産期病態研究部	幹細胞分化に伴ったクロマチン構造変化の解析
64	中田 雅久	早稲田大学大学院 先進理工学研究科 化学・生命化学専攻 中田研究室	FR182877簡略化構造の不斉合成と生物活性評価
65	中村 克樹	京都大学 霊長類研究所 高次脳機能分野	モノアミン減少による霊長類うつ病モデルの作出
66	西頭 英起	宮崎大学 医学部 機能生化学	筋萎縮性側索硬化症の病態分子メカニズムの解明
67	野村 洋	東京大学大学院 薬学系研究科 薬品作用学教室	不安障害の発現を担う神経回路の解明

68	羽田 沙緒里	北海道大学大学院 薬学研究院 神経科学研究室	関連ペプチド解析によるアルツハイマー病発症機構解明
69	濱崎 万穂	大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝学教室	ナノレベル光・電子顕微鏡相関法による細胞機能の解明
70	林 久允	東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬物動態学教室	小児性肝内胆汁うっ滞症の新規診断法及び治療薬の開発
71	板東 良雄	旭川医科大学 医学部 医学科 解剖学講座 機能形態学分野	脱髄疾患モデルを用いた新しい脱髄メカニズムの解明
72	松山 州徳	国立感染症研究所 ウイルス第三部 四室（急性呼吸器ウイルス及びサイトカイン研究室）	プロテアーゼ阻害剤による呼吸器系ウイルスの制御
73	丸山 玲緒	札幌医科大学 医学部 分子生物学講座	慢性胃炎において病的意義を持つ長鎖ncRNAの探索
74	三室 仁美	東京大学 医学部 医学系研究科 感染症国際研究センター 感染制御系細菌学分野	ヘリコバクターピロリ感染による疾患発症の分子基盤
75	向 高弘	神戸薬科大学 薬学部 薬品物理化学研究室	放射線により誘導される酵素を標的とする治療薬剤
76	村上 英樹	金沢大学 医薬保健学域 機能再建学（整形外科学）	がん免疫の増強を同時に可能にする脊椎腫瘍根治手術
77	毛利 彰宏	名城大学大学院 薬学研究科 病態解析学	臨床・基礎研究のクロストークによる精神疾患の克服
78	山下 政克	愛媛大学大学院 医学系研究科 免疫学・感染病態学	Bach2による慢性炎症のエピゲノム制御機構の解明
79	山田 浩司	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 生化学分野	細胞運動を司る分子クリップを標的にした制がん戦略
80	横島 聡	名古屋大学大学院 創薬科学研究科 天然物化学分野	高度な縮環構造を有するアルカロイドの全合成研究
81	吉田 清嗣	東京慈恵会医科大学 医学部 生化学講座	腫瘍悪性化の分子機構と癌治療への応用
82	吉原 誠一	奈良県立医科大学 先端医学研究機構 脳神経システム医科学	脳梗塞治療を目指した成体脳における神経回路再編機構
83	脇坂 尚宏	金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	舌癌pN0リンパ節内リンパ管数による後発転移の推定
84	脇本 敏幸	東京大学大学院 薬学系研究科 天然物化学教室	カリクリンAの生合成遺伝子ならびに生産菌の解明

平成24年度（第44回）海外留学補助金交付者一覧

交付人数：10名

（五十音順・敬称略）

No.	氏 名	所属機関（申請時）	研究テーマ
1	大平 洋	北海道大学大学院 医学研究科 内科学講座 呼吸器内科学分野	心サルコイドーシスの多施設共同研究
2	鬼塚 岳志	済生会 宇都宮病院 循環器科	心臓領域・下肢動脈治療データベースによる予後調査
3	小玉 尚宏	大阪大学大学院 医学系研究科 消化器内科学講座	トランスボゾンを用いた肝発癌原因遺伝子の網羅的探索
4	櫻井 俊宏	北海道大学大学院 保健科学院	酸化リポ蛋白質代謝に関連する心疾患診断マーカーの開発
5	白石 裕士	佐賀大学 医学部 分子生命科学講座分子医化学分野	非免疫細胞による免疫反応の制御機構に関する解析
6	新藤 悠子	慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室	非浸潤的脳刺激の効果を機能的MRIで解明
7	高橋 悠太	筑波大学 生命領域学際研究センター 深水プロジェクト	脱分化における老化リセッティング機構の解明
8	根本 泰宏	東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 消化器病態学	生体内ライブイメージングによる粘膜免疫機構の解析
9	藤村 篤史	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 細胞生理学教室	Hippoシグナル経路によるES細胞の分化制御機構
10	山橋 幸恵	東京大学大学院 医学系研究科 病因・病理学専攻 微生物学専攻 微生物学教室	極性制御因子PAR1bによる好中球の細胞極性制御

活動風景 選考委員会



選考委員会で真剣に
討議する各委員

2) 研究報告会

平成23年度（第43回）研究助成金交付者67名による研究報告会を、平成24年10月20日東京・経団連会館にて開催しました。2名が海外研究機関への留学（短期留学含む）のため、また、1名が日本血液学会での発表のため、報告会を欠席されましたので、報告者（口頭発表者）は64名でした。当財団では、この報告会を「研究者ご本人と選考委員との議論の場」と位置付けていることから代理発表は認めていません。そのため、欠席者3名からは、事前に理事長宛てに研究報告書を提出していただいています。必要に応じ、理事長による欠席者へのヒアリングも実施しています。

研究報告会風景



開会の挨拶をする児玉龍彦理事長と後藤由季子学術委員長



研究報告会プログラム



交流会風景（第3回交流会）



挨拶をする石井評議員会長



3) 特別講演

前年度の研究助成金交付者による研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に当財団役員等による特別講演を行ってまいりました。今回は、当財団学術委員の名古屋大学大学院 医学系研究科 尾崎紀夫教授による特別講演「患者・家族の想いを実現する研究：Democratizing Research」を実施いたしました。研究会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



経団連ホールでの講演風景



尾崎紀夫先生



講師を紹介する座長の一橋秀憲先生

表彰1. 最優秀理事長賞

平成24年10月20日開催の研究報告会で優れた研究成果を発表した研究者2名（口頭発表を聞いた選考委員による投票により、各発表会場から1名ずつ選ばれる）に最優秀理事長賞として表彰状と副賞（1件100万円、総額200万円）を授与しました。

第43回最優秀理事長賞 2名（1件100万円）

（五十音順・敬称略）

受賞者名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
国嶋 崇隆	金沢大学 医薬保健研究域薬学系 生物有機化学研究室	薬物標的となる未知タンパク質の高感度検出法の開発
華山 力成	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫ネットワーク研究室	食細胞による死細胞除去のシグナル伝達機構の解明



国嶋崇隆先生



華山力成先生

表彰2. 竹中奨励賞

平成24年10月20日開催の研究報告会での発表者の中から、今後の活躍が期待される若手研究者1名（口頭発表を聞いた選考委員の投票により決定）に竹中奨励賞として表彰状と副賞（50万円）を授与しました。栄えある第1回目の受賞者は以下の通りです。

平成24年度竹中奨励賞（1名）

受賞者名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
伊原 伸治	国立遺伝学研究所 構造遺伝学研究センター 多細胞構築研究室	基底膜の穴のサイズに破綻をきたした変異体の確立



伊原伸治先生



4) 第42回助成研究報告集

平成22年度（第42回）研究助成金を受けて実施された研究をまとめた報告集「第42回助成研究報告集」を、平成25年3月に発刊しました。

この報告集は平成22年度に研究助成を受けられた方々から、平成24年10月までにご報告いただいた研究成果をまとめたものです。知的財産権などを考慮して、発刊をこの時期まで遅らせています。

なお、平成19年度 第39回以降の研究報告集は、当財団ホームページの「その他」→「刊行物」サイトにて電子ブック形式で公開しています。下記のURLよりアクセスしてみてください。

<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>



3 会計報告（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

1）貸借対照表（平成25年3月31日現在）

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 資産の部			
1. 流動資産			
預金	6,941,500	10,543,818	17,485,318
流動資産合計	6,941,500	10,543,818	17,485,318
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券（株式含む）	2,119,214,281	0	2,119,214,281
預金	509,551,937	0	509,551,937
基本財産合計	2,628,766,218	0	2,628,766,218
(2) 特定財産			
1) 研究助成資金			
投資有価証券	499,478,129	0	499,478,129
預金	193,993,499	0	193,993,499
2) 竹中奨励賞資金			
預金	9,503,426	0	9,503,426
3) 公益目的事業資金			
預金	375,970,070	0	375,970,070
4) 法人会計資金			
預金	0	10,000,000	10,000,000
特定資産合計	1,078,945,124	10,000,000	1,088,945,124
(3) その他固定資産			
什器備品	4,357,500	571,200	4,928,700
減価償却累計額	△ 462,000	△ 209,440	△ 671,440
その他固定資産合計	3,895,500	361,760	4,257,260
固定資産合計	3,711,606,842	10,361,760	3,721,968,602
資産合計	3,718,548,342	20,905,578	3,739,453,920
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,343,338	345,641	2,688,979
流動負債合計	2,343,338	345,641	2,688,979
負債合計	2,343,338	345,641	2,688,979
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	1,534,026,344	10,000,000	1,544,026,344
（うち基本財産への充当額）	(455,081,220)	(0)	(455,081,220)
（うち研究助成資金への充当額）	(1,078,945,124)	(10,000,000)	(1,088,945,124)
2. 一般正味財産			
（うち基本財産への充当額）	2,182,178,660	10,559,937	2,192,738,597
（うち基本財産への充当額）	(2,173,684,998)	(0)	(2,173,684,998)
正味財産合計	3,716,205,004	20,559,937	3,736,764,941
負債および正味財産合計	3,718,548,342	20,905,578	3,739,453,920

2）正味財産増減計算書

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	124,475,245	11,684,670	136,159,915
(2) 経常費用			
①事業費	128,953,832	0	128,953,832
②管理費	0	8,840,829	8,840,829
経常費用計	128,953,832	8,840,829	137,794,661
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,478,587	2,843,841	△ 1,634,746
基本財産評価損益等	89,640,000	0	89,640,000
評価損益等計	89,640,000	0	89,640,000
当期経常増減額	85,161,413	2,843,841	88,005,254
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	85,161,413	2,843,841	88,005,254
一般正味財産期首残高	2,097,017,247	7,716,096	2,104,733,343
一般正味財産期末残高	2,182,178,660	10,559,937	2,192,738,597
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,010,000	10,000,000	11,010,000
基本財産運用益	11,691,810	0	11,691,810
特定資産運用益	6,721,095	0	6,721,095
基本財産評価益	149,295,420	0	149,295,420
一般正味財産への振替額	△ 108,752,638	△ 9,156,841	△ 117,909,479
当期指定正味財産増減額	59,965,687	843,159	60,808,846
指定正味財産期首残高	1,474,060,657	9,156,841	1,483,217,498
指定正味財産期末残高	1,534,026,344	10,000,000	1,544,026,344
III 正味財産期末残高	3,716,205,004	20,559,937	3,736,764,941